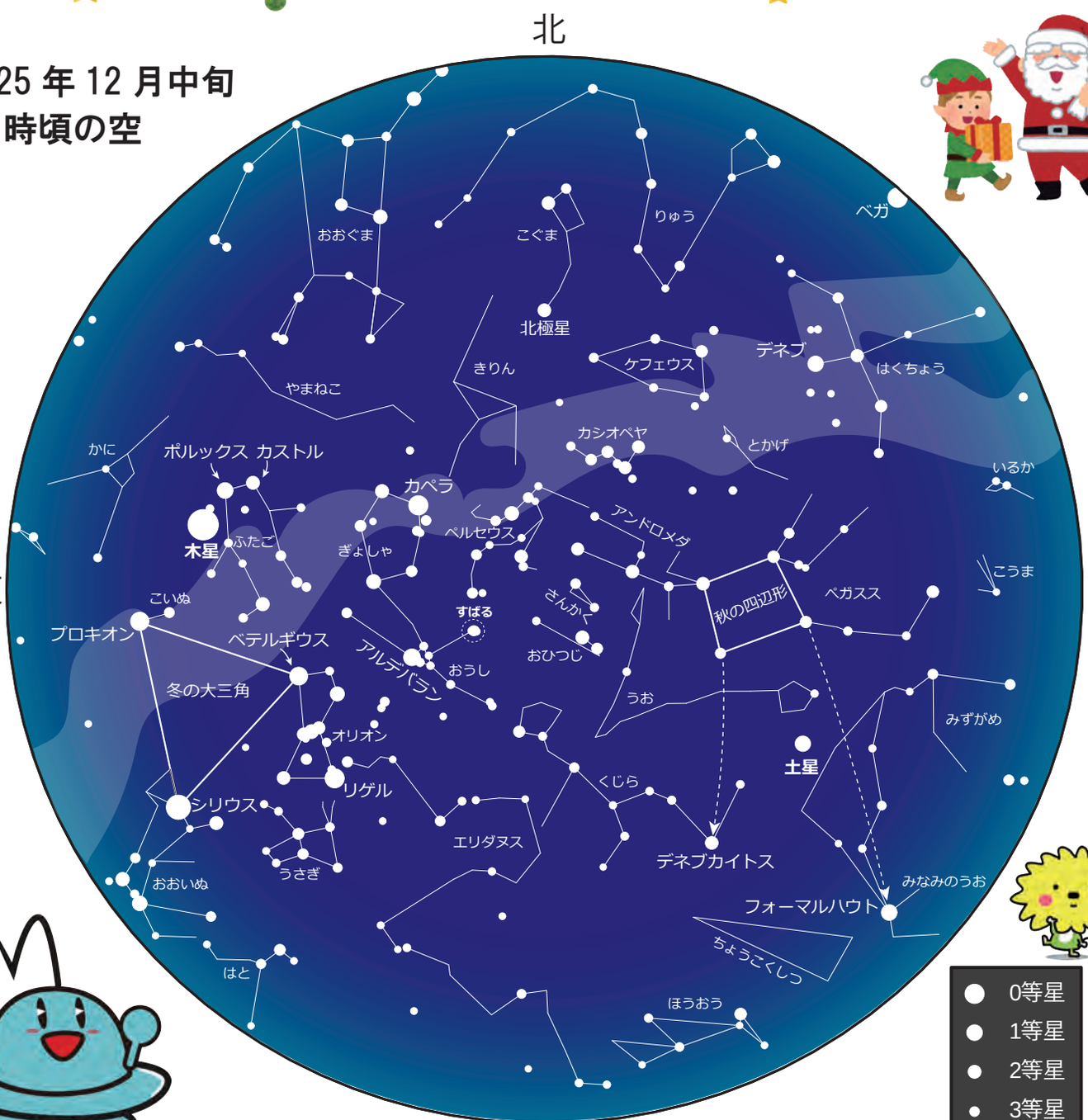
阿南市科学センター

12月の星空案内

2025年12月中旬
21時頃の空



気が付けばもう12月、1年は本当にあっという間ですね。さて空を見上げてみるとだんだん冬の星座たちが東から姿を見せ始めています。南の空高いところに目を向けると、星がたくさん集まった散開星団**すばる**を見つけることができます。目がいい人では肉眼で星が6～7個、双眼鏡を使えば100個以上星が集まっていることでしょう。このすばるは**おうし座**に属し、おうし座にはオレンジっぽい色をした一等星**アルデバラン**（約0.9等）を見つけることができます。今度は東に目を向けてみるとひときわ明るく輝く星があり、惑星の仲間である**木星**（約 -2.6等）です。木星のすぐ近くでは**ふたご座**が輝き、兄の**カストル**（約1.6等）、弟の**ポルックス**（約1.2等）と木星がならんで、まるで3兄弟のようにも見えますね。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて　【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター　　電話 0884-42-1600　　https://www.ananscience.jp/science/

■ 12 月の月の満ち欠けと惑星について

満月
5日

下弦
12日

新月
20日

上弦
28日

12 月の天体観望会で月が見える日時は？

12/6(土)　20時の回で観察可能

12/27(土) 全ての回で観察可能

水星：上旬から中旬にかけて明け方東の低空で見える（8日に西方最大離角）【約 -0.4等】

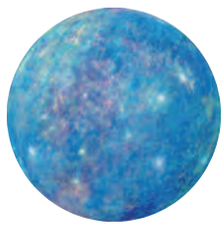
金星：太陽にかなり近いため見えない。

火星：太陽にかなり近いため見えない。

木星：一晩中観察しやすい【約 -2.6等】

土星：日没後、南の空で見え始め前半夜に沈む【約1.1等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ8日の明るさ）。



■ 今月の天文現象

【　12月14日日曜日、ふたご座流星群が極大をむかえる　】

三大流星群のうちの一つであるふたご座流星群。今年は12月14日の17時ごろに極大をむかえる。今年は月齢が24日、深夜1時半ごろに月がのぼってくるため、見やすい時間の観測は好条件といえそうです。放射点の位置は図1の通りですが、図1では様々な方向に流星が見えています。流星というのは放射点から流れているように見えますが、実際には空のどこに流星が現れるか誰にもわかりません。そのため、流星を観察したい場合は無理に放射点に注目するのではなく、とにかく空全体を見渡すことがポイントです。そして暗い空で、街頭や家の明かりが少ないところで観察をすると流星がたくさん見つかるかもしれませんね。冬の夜はとても寒いので防寒対策をしっかりして体調を崩さないように流星を探してみましょう。

図1　ふたご座流星群の放射点の位置
（2025年12月14日21時00分頃の阿南市から見た空）
※図はステラナビゲータより作成

そもそもなぜ流星群は同じ時期に毎年見られるのでしょうか？そもそも流星は星が落ちてきているわけではありません。流星の元となる天体は彗星です。彗星はたくさんのチリやガスを放出して尾を作りながら太陽の周りを回っている天体です。ここで注目したいのはチリ。実は彗星が通った軌道にはこのチリがたくさん残されています。そして彗星の軌道というのはまちまちでまれに彗星の軌道と地球の軌道が交わることがあります。地球は太陽の周りを一年で一周するので、一年に一度、彗星が通ったチリがたくさん含まれている軌道に突入します。すると軌道にあるチリはたくさん地球に降り注いでくるのです。これが流星群の正体となります。例えると蚊柱に顔を突っ込んでいるような状態です。ちなみに流星となるチリの大きさは数ミリメートル程度です。さらに大きいサイズになってくると火球とよばれる明るい流星になり、火球が地面に達すると隕石と呼ばれます。ふたご座流星群でも明るい火球が見られることがまれにあります。当館でもふたご座流星群観望会を14日に行いますのでぜひ足を運んでみてくださいね。

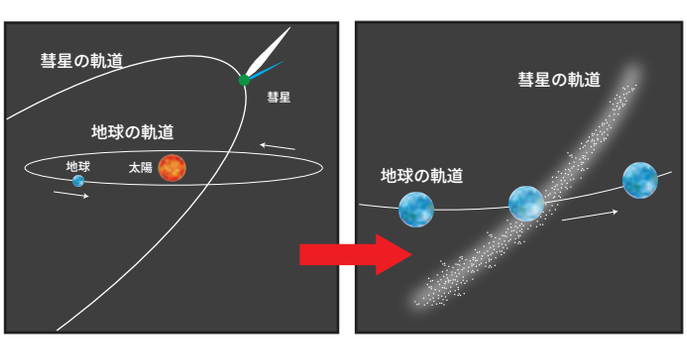


図2　地球と彗星の関係によって発生する流星群